

比較文化学科30周年記念シンポジウム

——共生と記憶の比較文化論——

主催：比較文化学科、比較文化学会共催

1. シンポジウム開催の趣旨と背景

比較文化学科創立30周年を記念し、その過去と現在を踏まえ、今後の発展の方向性を議論する。

本シンポジウムは3部構成であり、まず第1部「基調報告」では、30周年記念論集『共生と記憶の比較文化論』を題材とし、専任教員代表によるその到達点についての紹介が行われる。第2部では、記念論集にまとめられた成果に対し、本学科を卒業し大学院で研究を続けられているOB・OGによるパネル・ディスカッションが行われる。ここでは記念論集に対する評価及び批判が期待される。

さらに第3部では、比較文化学科の歩みを写真、資料等で振り返り、第1部、第2部の参加者、本学科のOB・OGや比較文化学会を中心とした現役学生とともに、今後の比較文化研究の課題について話し合うものとする。

2. 開催日時・会場

日時：2024年2月2月10日（土）13:00~17:00

会場：都留文科大学 THMC（6号館）

3. 次第

シンポジウムは以下の内容で、第1部(13:00~13:25)、第2部(13:30~15:00)、第3部(15:10~16:20)として行う。

(1) 第1部：趣旨説明『共生と記憶の比較文化論—ともにつくる歴史と現在—』の到達点
学科長の菊池による共著の内容の紹介（25分）

(2) 第2部：『共生と記憶の比較文化論』の論点とその批判

30周年記念論集が「共生」と「記憶」をキーワードとして、何を明らかにし得たかを中心とした、本学科出身の大学院生によるパネル・ディスカッション（90分）。

白鎮慶氏（東北大学大学院文学研究科、日中関係史、戦争責任研究）

余楽氏（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 ジェンダー学際専攻、中国農村研究、農村女性（長女たち）の移動と定住）

山田恭弘氏（東北大学大学院国際文化研究科、白話小説翻訳史、文化受容研究）

(3) 第3部：現役学生から

比較文化学会主催の文化交流活動補助金等受賞者による研究発表。

(4) 閉会の辞

加藤敦子学長による閉会のお言葉（16:30～）。

4. 開催形式と規模

Zoom配信とのハイブリッド形式で行う。

5. 参加対象

在学生、現職教員、専任教員OB・OG、学部・大学院のOB・OG。

約2,600人の卒業生向けにHP、SNSで通知し、希望者にはZoomのURLを送付する。

第2部のパネル・ディスカッション参加者3名を除き、ご来場の場合は特に交通費や宿舎の手配は行わない（教員OB・OG含む）

6. その他

録画、録音など記録を残す。